

「気付いたときは、妊娠三カ月くらいだったと思います。」

あどけなさの残る十代の女性。パートナーはまだ学生で、二人は入籍していません。既に二歳になる長男とともに暮らしており、二回目の妊娠が分かっても、同居する祖父母には打ち明けられませんでした。お腹があまり目立たなかったこともあり、家族に気付かれることなく臨月を迎えます。

「妊娠が分かったとき、本当は病院へ行きたかった。でも、血液検査などで二万円くらいかかると聞いて、行けませんでした。」

第二子の妊娠中は母親が医療費を負担してくれました。しかし、その際に中絶を勧められた経験がありました。「今回も知られたら、また中絶を勧められるかもしれない」。その不安から、母親には相談できなかったといいます。

「本当は、内密出産をしたかった。」
臨月になって、慈恵病院の新生児相談室へLINEで相談しました。しかし、実際に病院へ向かうことができたのは

陣痛が始まってからでした。

県外から車で数時間。病院の近くまでたどり着いたところで破水し、そのまま車内で出産となりました。

「ポーチに入っていた小さなハサミで、へその緒を切りました。」

それまで落ちていたパートナーも、血に染まった車内を目の当たりにして初めて事の重大さを実感し、大きく動揺したといいます。母親は立ち上がることはできず、パートナーが生まれたばかりの赤ちゃんを『このとりゆりかご』へ預け入れました。しばらくして看護師が駆けつけ、話を聞いてくれました。医師の診察を受け、貧血はあったものの母体に大きな異常はなく、赤ちゃんだけが入院することになりました。幸い、新生児相談室長と連絡を取り合っていたため、帰宅後も相談を続けることができました。

「赤ちゃんに会いたい。」

その思いは、日を追うごとに強くなっていきました。現在も、少なくとも週に一度、片道数時間かけて赤ちゃんに

会いに来ています。少しでも交通費を節約するため、高速道路は使いません。

「来年、パートナーが卒業して就職したら、入籍して家族四人で暮らすつもりです。それまで、少しだけ待っていてほしいです。」

『このとりゆりかご』は、親子を引き離すための場所ではありません。誰にも相談できず、孤立し、追い詰められた女性が、安全に命を守り、その後の人生を立て直すための時間をつくる場所でもあります。そして、その時間を支えるのは、医療従事者だけではなく、相談に寄り添う人、親子を見守る人、そして活動を支えてくださる支援者の皆さまの存在です。

「いつか必ず、一緒に暮らしたい。」

その願いを現実にするために、一組でも多くの親子が希望を失わずに歩んでいけるよう、私たちはこれからも寄り添い続けます。

ゆりかごだより

Vol.3
2026年7月



Interview
インタビュー

「いつか必ず、一緒に暮らしたい」

泉佐野市長、自民党PTが来訪



医療法人聖粒会
慈恵病院



フランスの匿名出産を学ぶ

当院の産婦人科医師と看護部、新生児相談室より3名が「匿名出産」について学ぶためフランスのヴェジネ病院を訪れました。フランスでは「匿名出産」を通して個人の命と権利が守られています。



泉佐野市長が来訪

大阪府の千代松大耕泉佐野市長が視察のために来訪。「こうのとりのゆりかご」の他、分娩室や困窮妊婦保護施設を見学しました。その後、蓮田健院長より「内密出産」の現状や行政主導型の課題について説明しました。泉佐野市は「赤ちゃんポスト」と「内密出産」を予定しています。



自民党PTが視察

自民党の内密出産を考えるプロジェクトチーム(PT)が発足。PT座長の松野博一・元官房長官、特命委委員長の阿部俊子・前文部科学相、特命委顧問の坂本哲志・元農相の3名が視察に訪れました。今後、有識者会議で論点を整理し、議論を深めていく方針です。



本山設備様よりプレゼント

株式会社本山設備様が今年もベビードレスやロンパース、おもちゃを「こうのとりのゆりかご」「内密出産」の赤ちゃんのために届けてくださいました。退院する時に身に着けるベビードレスは一生の宝物となるので喜ばれています。ありがとうございました。



こうのとりのゆりかご基金

小さないのちと一緒に支えてください

日本では出生数が年間70万人を割れる一方、人工妊娠中絶件数は年間12万人を超えています。「思いがけない妊娠」「望まない妊娠」はそれほど多いということです。

妊娠の事実を隠し通さなければならない妊婦さんは、病院を受診することなく出産日を迎えます。このような妊婦さんのために『こうのとりのゆりかご基金』では、「SOS赤ちゃんとお母さんの妊娠相談」「こうのとりのゆりかご(赤ちゃんポスト)」「困窮妊婦保護施設(エンゼルルーム)」「内密出産」等の選択肢をご用意しております。

これらの活動には年間およそ5,000万円の費用がかかり、私ども中小の病院には大変重たいものです。皆さまに寄せていただいた『こうのとりのゆりかご基金』は、支援の必要な赤ちゃんとお母さんのために大切にに使わせていただいております。

今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

温かなご寄付をお待ちしております

郵便局振込

【口座番号】
01760-7-96387
【口座名義】
こうのとりの
ゆりかご基金

銀行振込

肥後銀行 島崎支店
普通預金 273221
慈恵病院
こうのとりのゆりかご
代表 蓮田健

オンライン振込



現金書留

〒860-0073
熊本市西区島崎6-1-27
「こうのとりの
ゆりかご基金」宛

募金箱

当院マリア館
1階・2階に
設置しております。

「こうのとりのゆりかご」のロゴマークが新しくなりました



2026年1月、「こうのとりのゆりかご」のロゴマークがリニューアルしました。デザインを協力していただいたのは熊本市にある株式会社ライズデザイン様。当院の「こうのとりのゆりかご」に関わる活動にご賛同いただき、ボランティアとして協力してくださいました。

また「こうのとりのゆりかご」に続く通路の壁に、赤ちゃんの誕生からコウノトリに救われるまでストーリー仕立てにした壁画も描いてくださいました。寺本圭吾代表取締役は、「赤ちゃんを預けにここまで来たお母さんに少しでも安心していただきたいという思いで描きました。赤ちゃんを預けることができて良かったと思っていただけたら幸いです」と語りました。

発行：医療法人聖粒会 慈恵病院
〒860-0073 熊本県熊本市西区島崎6丁目1番27号

TEL:096-355-6131(代表) FAX:096-359-8221
HP:<http://jikei-hp.or.jp>